

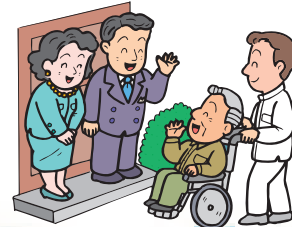
D

広告、口コミ、インターネット、回覧板、広報等の活用

現状

末端まで
行き届いている？

どんなことをしたらいいの？
どこでしているの？



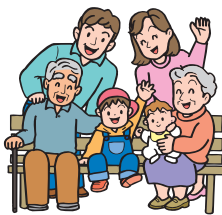
手立て

様々なツールの良さを活用し、各市町村の実情に応じてより効果的な方法を！！

〈ツール〉CATVなどのケーブルテレビ、防災無線、広報や市町村のお便り、回覧 など



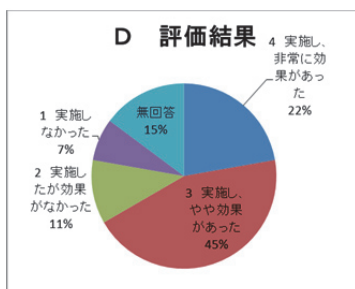
対象にあわせた広報を！



参加者や自治会などのメンバーからの口コミ、民生委員などの職員の訪問も効果大

アンケート調査より

【検証】



・ 78%が実施し、67%が効果があったと回答。

「効果があった理由」

- ・ 広報や防災無線、CATV、チラシなどを活用しPRができた。
- ・ 新たにホームページの活用や新聞掲載、トレーニングポスターの作成を実施した。など

- ・ 効果がなかったと答えた市町村でもイベントをHPで周知したり、スポーツ活動の啓発や報告などのチラシを配布している。

<実施例>

○『ふれあいウォーキング大会』のゴールポイントで12月に開催する初心者スキー・スノーボード教室のお知らせ（申込書）を配布した。（南アルプス市）

ツール：チラシ、他イベントでの配布



○エアロビクス教室やグラウンドゴルフ練習会・大会の開催についてのチラシを村内全戸に配布。開催日には、防災無線を活用。（小菅村）

ツール：チラシ、全戸配布、防災無線



○保育園児を対象としたミニソフトボール教室や小学生陸上教室を、CATV、テレビ、新聞、市の広報に掲載。

ソフトボール教室参加の保護者に、「運動で育つ、子どもの脳、体、心」と題したチラシを配付し、体を動かすことの楽しさ、大切さを伝えた。

小学生陸上教室をCATVにて1時間番組で放送し当日参加できなかった子どもにも見てもらうようにした。（甲州市）

ツール：チラシ（保護者対象）、CATV（一時間放映）、テレビ、新聞、広報、



○『なんぶ健康会議』『スマイルなんぶ ～健康・長寿 日本一を目指して～』の運動部会主体で、簡単に毎日できるトレーニングポスターを作成し、全戸配布した。（南部町）

ツール：トレーニングポスター

○スポーツ推進委員活動の紹介のため、推進委員編集による「スポーツ推進委員だより」を年4回発行。スポーツ推進委員だよりを見た方から、各種教室等への申し込みを数多く受けた。（昭和町）

ツール：スポーツ推進委員だより



地域スポーツ振興の鍵～既存の組織の枠を超えた新しいアプローチを～

山梨学院大学経営情報学部 准教授 長倉 富貴

スポーツ活動や運動することが、健康面、心理面、体力面、人間関係と多面的な意義を持つことは改めてここ
でいうまでもありません。しかし今日「スポーツ」は誰もが享受すべき「文化」であり「権利」であると認識し
ている人はまだ少ないように思います。平成 23 年にスポーツ基本法が制定され、そこには「スポーツを通じて
幸福で豊かな生活を営むことは、全ての人々の権利」であると明記されましたⁱ。また、翌年公示されたスポーツ
基本計画には誰もがスポーツをできる環境を整えることは国や自治体の責務であると示されています。ⁱⁱ

地域スポーツの現状を見た場合、すべての人々がスポーツを
する機会を得ているのでしょうか。平成 24 年度の文部科学省の
調査では「運動・スポーツを行わなかった理由」としては「運
動・スポーツが好きでないから」と答えた人が 13.5%であ
るのに対して、50%を超える人が「仕事（家事・育児）が忙
しくて時間がない」と答えています。このことからスポーツ
をしたくても出来ない人が多くいることがわかります。また障
害をもっている方のスポーツ実施率は健常者のスポーツ実施率
に比べ低い数字となっていますⁱⁱⁱ。

今までのスポーツ行政はスポーツを好きな人がスポーツをす
る環境を整えるというスタンスであったといっても過言ではな
いと思います。スポーツプログラムを提供する立場にある人達
は、こうしたスポーツをしたくても出来ない人にアプローチ
をし、スポーツ実施率をあげていく必要があります。

スポーツ未実施者へのアプローチ

1. スポーツ活動への抵抗条件を理解すること
2. 抵抗条件をどのように取り除けるか考えること
3. 組織間の連携による新しいアプローチ

ではスポーツ未実施の人を実施者にさせるにはどうしたらよいのでしょうか。まずはスポーツ実施への障害にな
っている要因（スポーツ活動への抵抗条件）を理解することです。スポーツ活動への抵抗条件には以下のよう
なものが挙げられます。

スポーツ活動への抵抗条件

- ▶ 経済的 ... お金がない
パートしないといけない
- ▶ 社会的 ... 遊んでいるとみられる
残業せざるを得ない
- ▶ 環境的 ... 近くにスポーツ機会がない
施設がない
- ▶ 経営的 ... 魅力的なプログラムがない
知らない
- ▶ 主体的 ... スポーツに興味ない、嫌い、面倒

2つめにその抵抗条件をどのように取り除けるかを考える
ことです。経営努力やプログラムの工夫次第でクリアできるも
のあれば、スポーツを提供する側ではどうにもならないもの
もありますが、まずは一つ一つの抵抗条件をどのように改善で
きるか考えることです。今までの方法やアプローチでは解決で
きなければ新しいアプローチを考える必要があります。

そしてスポーツ未実施者にアプローチするもっとも効率的
な方法は組織間の連携です。それぞれの組織の枠を広げ新たな
アプローチをするにも組織のリソースは限られています。いわ
ゆる経営資源といわれる「ヒト」「モノ」「カネ」「情報」はす
ぐに増やしたり獲得できるものではないでしょう。ですが、地
域の別組織と連携することでその限りあるリソースを補いあ
い、個の組織ではできない新しいアプローチができるのではな
いのでしょうか。具体的には以下のような連携が考えられます。

従来の体育館やスポーツクラブで運動プログラム
を提供するばかりでなく、スポーツの場でないところ
に「出向いて」って、子育てで忙しいママ達に
子供の遊びプログラムと同時にママ達への運動プロ
グラムを提供したり、文化プログラムの付帯イベン
トとしてスポーツをする場を提供したりする。ある
いは国際交流の場としてスポーツプログラムを提供
する。以下の写真は実際に新しいスポーツの場を提
供した例です。

他組織との連携、協力体制づくり



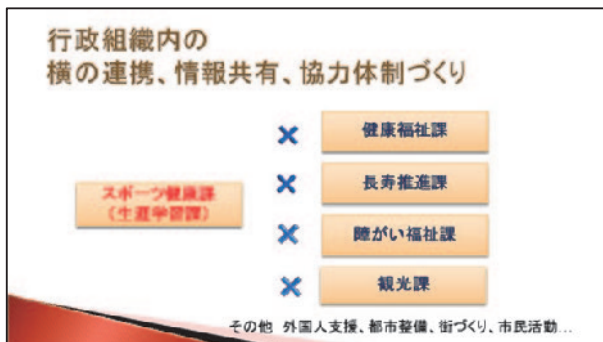
事例１．文化イベントの付帯イベントとして開催した室内でのミニテニスイベントの様子



事例２．国際交流イベントとして開催した駐車場でのミニテニス大会の様子



また行政組織内でも同じようなことが言えます。健康、スポーツというキーワードで部署間の枠を超えてみると今までと違った新しいアプローチが行えるのではないのでしょうか。



昨年 10 月にスポーツ庁が設置され、今後徐々に国や県、自治体のスポーツ行政の仕組みは変わることになると思いますが、地域の現場から先立ってアプローチをしていくことも必要であると考えます。

スポーツを提供する側は、プログラムを用意して参加者が来るのを待っていてはいけません。こちらから出向いていかななくてはなりません。またあらたなタッチポイントを開拓していかななくてはなりません。既存の組織の枠を広げ時には枠を超えて新しい仲間と協力しあい、不足するリソースを補い合って地域スポーツの構成体としてともに同じ目標をもって地域のスポーツ振興を推進していかななくてはなりません。新しいことにチャレンジすることは時に勇気が必要かもしれません。知らない人と一緒に仕事をする事はやりにくかったり不安があるかもしれません。ですが、一歩踏み出し、それぞれの幅を広げてみれば、自然と地域の輪が大きくなっていくのではないのでしょうか。今年度の地域スポーツ振興の 3 つのキーワード「タッチポイント」「出向く」「連携・協働」はまさに新しいスポーツ機会の開拓につながる 3 要素です。今後もぜひ組織の枠を超えてみてください。そして皆さんの力で山梨のスポーツ振興を促進していただきたいと思います。

i 「スポーツを通じて幸福で豊かな生活を営むことは、全ての人々の権利」（スポーツ基本法、平成 23 年 8 月施行）

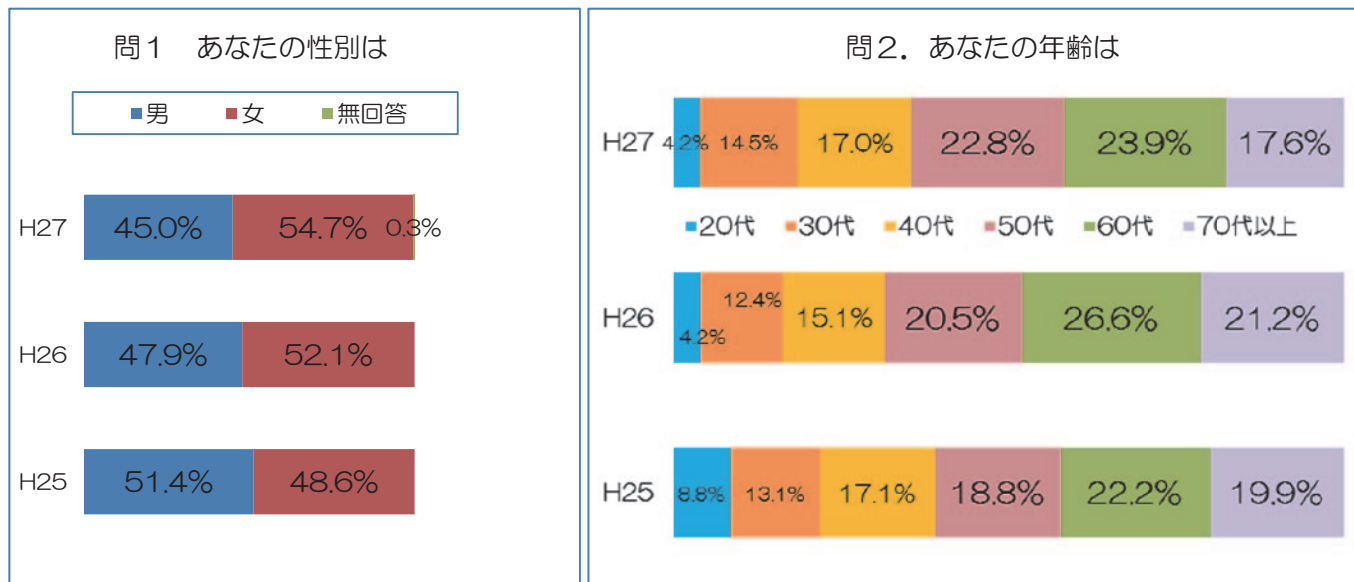
ii 「年齢や性別、障害等を問わず、広く人々が、関心、適正等に応じてスポーツに参加することができるスポーツ環境を整備する。」（スポーツ基本計画、平成 24 年 3 月 30 日告示）

iii スポーツ庁スポーツ審議会資料「スポーツ行政の現状」 平成 27 年 12 月

H27 年度 県政モニター調査結果 (H28 年 1 月実施)

今年度の「県民のスポーツに対する意識活動調査」は、昨年度に引き続きこの1年間の状況変化を把握し、今後の施策・事業に反映させるために実施いたしました。

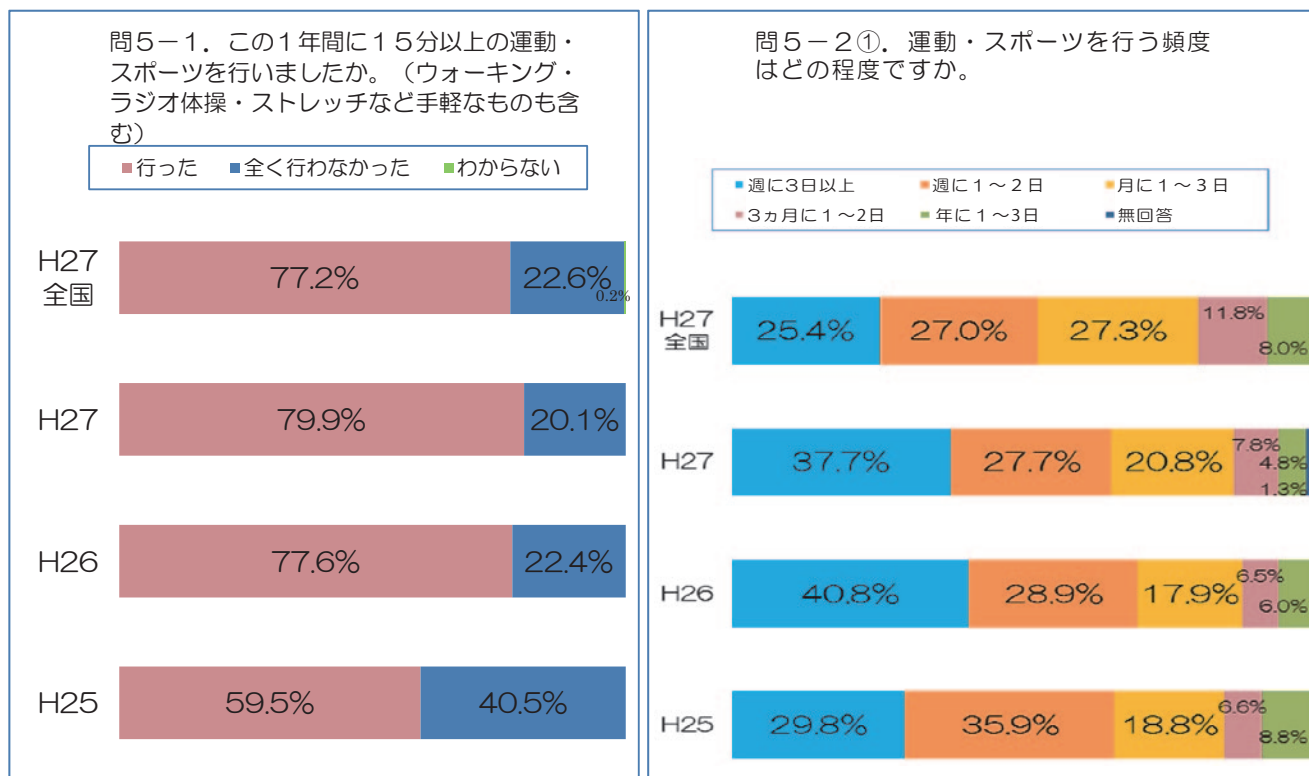
1. 回答者の内訳



*性別でみると、H25、H26に比べ女性の割合が高かった。

*年代別で見ると、60代が多く、続いて50代、70代以上となり、20代の割合が最も少なかった。

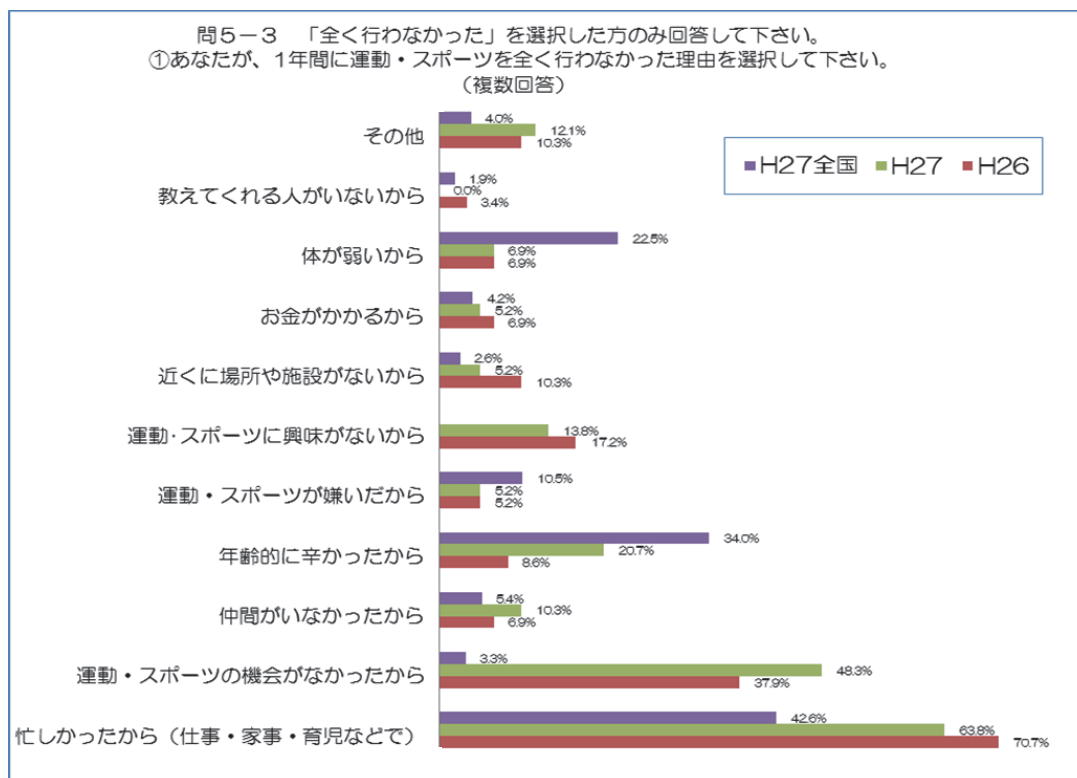
2. 運動・スポーツの実施状況について



*H27は運動・スポーツを「行った」が79.9%でH26及び全国を上回る結果となった。

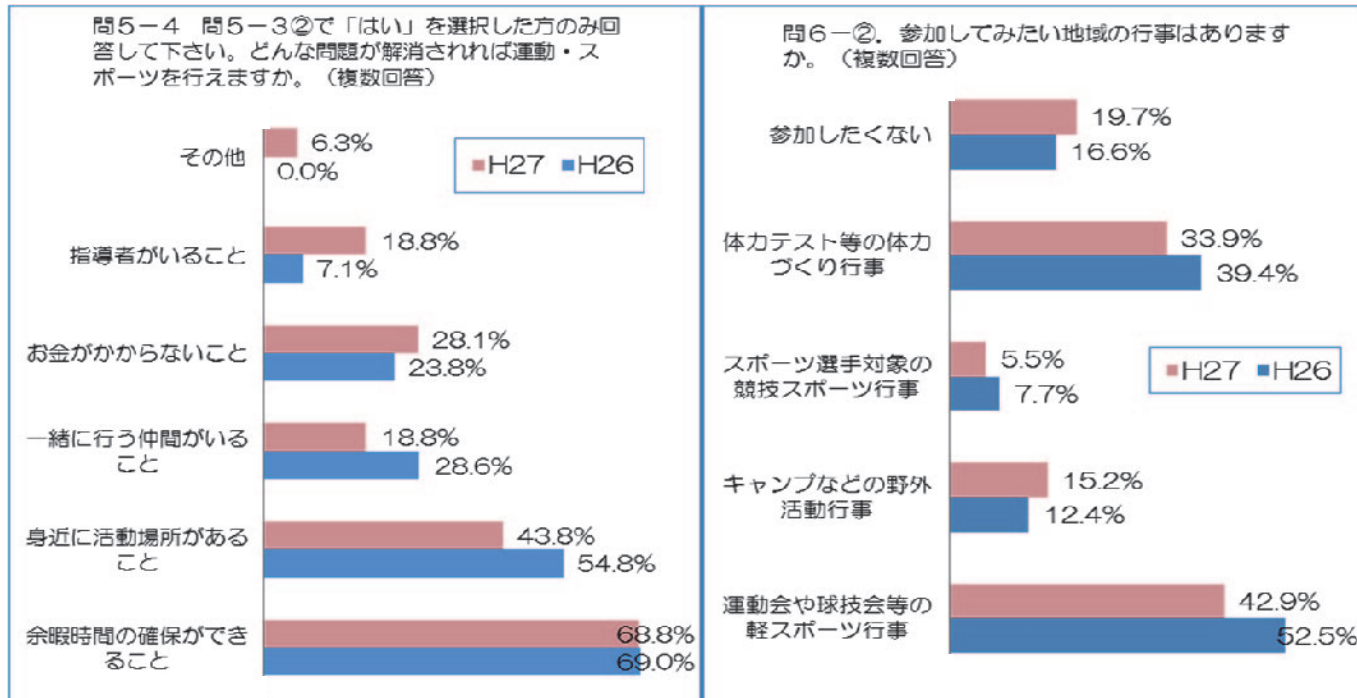
*運動・スポーツを行う頻度については、H26に比べ、「週に3日以上」「週に1~2日」の割合が減少し、「月に1~3日」「3ヶ月に1~2日」の割合が増加した。

3. 運動・スポーツを行わなかった理由



＊1年間に運動・スポーツを全く行わなかった理由で一番多かったのは「忙しかったから」でH26同様の高い割合であったが、「運動・スポーツの機会がなかったから」が48.3%になり昨年(37.9%)に比べ10%以上増加した。

4. その他



＊どんな問題が解消されれば運動・スポーツを行えるかについては「余暇の時間が確保できること」がH26同様高い割合となった。

＊参加してみたい地域の行事については、H26同様「運動会や球技会等軽スポーツ行事」(42.9%)が最も多く、続いて体力テスト等の体力づくり行事(33.9%)となった。「参加したくない」が(19.7%)と前回の(16.6%)を上回る結果となった

スポーツには力がある

人を変える力

社会を変える力

地域や国を変える力

**たかがスポーツ、されどスポーツ
そこには大切なメッセージがある**

「オリンピックに学ぶ～スポーツを通じた元気な地域づくり～」講演会

筑波大学 准教授 山口 香氏『スポーツの力 明るく元気な地域づくり』資料より

平成27年度 身近な地域スポーツ促進事業

「スポーツ JanJan ～より身近なスポーツ活動を推進するために～」

平成28年3月発行

編集・発行 山梨県教育庁スポーツ健康課
山梨県甲府市丸の内1-6-1
電話 055(223)1782